

令和5年度 東京都立立川高等学校 全日制課程 学校経営計画

東京都立立川高等学校長
鈴木 宏 治

1 目指す学校

◆スクールミッション

主体的かつ創造的な学習への意欲を高め、論理的思考力・健全な批判力を養い、世界に発信できるリーダーとしての素養を獲得させます。物事を広い視野で多角的に捉え、全体最適化に向けて行動できる生徒、文理にこだわらない幅広い素養と情報活用能力等を高いレベルで活かし、新しいイノベーションを生み出す人材を育成します。

◆スクールポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

【普通科・創造理数科】

- 新たな時代を切り拓き、国際社会でたくましく活躍する人材としての素養をもつ
- 高い志を抱き、その目標を実現できる知・徳・体のバランスと真の学力をもつ
- 自律的な行動ができ、人と関わる力や豊かな心と高い倫理観をもつ

【創造理数科】

- 理数系分野の素養を深め、物事の本質を見極めようとする姿勢をもつ
- 将来にわたって研究する科学的人材としての基本的な資質と能力をもつ

(2) カリキュラム・ポリシー

- 1 学習習慣の確立と自学自習の態度の育成を目指す学習指導
- 2 高い目標を掲げ、進路実現を図る進路指導
- 3 自主自律の精神を涵養する生徒指導
- 4 国際社会で活躍する科学技術人材を育成する探究活動指導

(3) アドミッション・ポリシー

- 1 学業成績が極めて良好で、本校の【普通科】または【創造理数科】の教育課程を理解し、入学後も意欲的に学習に取り組むことができる生徒
- 2 難関国公立大学進学への意欲など将来の進路実現に向けて、高い志を掲げ、継続して努力することができる生徒
- 3 自らの行動に自覚と責任をもち、中学校において、学習と特別活動などを両立させてきた実績がある生徒
- 4 【普通科】探究的な姿勢をもち、自ら課題を見付け、その解決策を見出すような取り組みができ、何にでも興味をもち、自分のこととして物事を捉えることができる生徒

【創造理数科】科学分野に高い興味関心をもち、研究活動などの創造的な活動に意欲があり、外部の研究発表会などに積極的に参加することができる生徒

【教育目標】

- 主体的かつ創造的な学習への意欲を高め、基礎学力の充実と論理的思考力・健全な批判力を養い、世界に向けて発信することのできるリーダーとしての素養の獲得
- 物事を広い視野で多角的に捉え、内在する課題を見出し、全体最適化のための道筋を導き出し、その実現に向けて行動できる学力の習得
- 文理にこだわらない幅広い素養と情報活用能力等を高いレベルで併せ持ち、それらを活かして新しいイノベーションを生み出すことのできる人材の育成

【目指す学校像】

- Challenge(挑戦する心)・Collaboration(協働する姿勢)・Concentration(集中力)・Creativity(創造性)・Confidence(自信)・Critical thinking(批判的思考力)・Citizenship(市民としての義務を果たす力)という「7つの力」を育む学校
- 将来にわたって探究する姿勢をもち、高い志を目指し続けるようなリーダーシップを育む学校
- 生徒、保護者、同窓生、地域関係者及び教職員が愛し、誇れる学校

2 中期的目標とその達成に向けた方策

(1)学習指導

① 進学指導重点校として安定した高い進学実績を達成する。

《方策》 難関国公立大学等の入試に対応できる教科指導力の向上、模試結果の確実なフィードバックと指導への反映、学習成果のポートフォリオ化、大学入学共通テストのフル型受験の奨励

② スーパーサイエンスハイスクールとしての活動を充実させ、探究能力と国際性の育成を図る。

《方策》 S S H II 期目（令和5年度～令和9年度）の取組の充実、課題研究の質の向上、大学や研究機関等との連携の強化、研究発表の機会創出、科学オリンピック等への参加、海外学校間交流・S S H 海外研修・S S コミュニケーション英語の充実

③ 創造理数科の特色ある教育実践により、将来の科学技術系人材の基礎を育む。

《方策》 理数系科目の授業充実、質の高い課題研究の実施、英語プログラムの実施、多彩な企画の実施

④ ICT機器・個人端末を活用し、個別最適化された学び・協働的な学びを実現する。

《方策》 ICT 機器・個人端末活用を促す教員研修、ICT 支援員の活用、ICT を活用した相互授業参観

(2)進路指導

① 第一志望を諦めさせない進路指導を行う。

《方策》 学年・進路部・教科間の連携強化、面談（二者・三者）の充実、進路講演会・社会人講話の充実、大学受験情報の迅速かつ確実な提供

② 進学指導重点校としての目標を安定的に達成する。

《方策》 自校作成問題・推薦入試問題の質の向上、高い志をもつ生徒集団の構築、個人の3年間の成績データの共有とデータに基づく指導・激励、総合型選抜入試への対応

(3)生活指導・保健指導

① 基本的生活習慣を確立する。

《方策》 クラス・学年・全校集会等の全体指導の充実、個別指導の充実

② ダイバーシティ意識を醸成し、合理的な配慮に基づく教育活動を実現する。

《方策》 特別支援教育の理解、多様性を認める教育の推進、いじめ防止対策、カウンセリング機能の強

化、教員研修の推進

○ 感染症対策を徹底し、感染しない・させない意識と行動を身に付けた生徒を育成する。

《方策》 毎日の健康チェック・日常的な感染予防の徹底、状況に応じた注意喚起の実施

(4) 特別活動

① 特別活動の一層の充実を図り、学校生活全体を通じて、自主自律的な行動のできる生徒を育成する。

《方策》 生徒が主体となる部活動・委員会活動・学校行事の推進、教員による適切なサポート体制の構築

(5) 広報・募集対策

① 本校の魅力を様々な方法で発信し、入学希望者数の安定化と拡大を図る。

《方策》 学校HP随時更新、HPレイアウトの一層の工夫、塾対象説明会・学校説明会でのPR力強化、学校見学者に対する受入態勢の整備

(6) 学校運営・組織体制

① 企画調整会議、職員会議、各種会議(学年会、分掌会、教科会等)、委員会の役割を明確化して計画的・効率的に運営し、決定事項を確実に学校経営に反映させる。

《方策》 校内NASを用いた正確で迅速な情報共有、年度末に総括、次年度の取組への反映

② 教育目標を達成するための教育環境を整備する。

《方策》 改築工事の計画的な実行、校内美化の推進、経営企画室の経営参画。計画的な予算執行、同窓会・保護者との連携強化、既存設備の点検と安全管理

③ 教職員のライフ・ワーク・バランスの安定化を経営計画に位置付け、心身の健康を維持する。

《方策》 管理職による勤務時間管理、面談による状況把握・改善

3 今年度の取組目標とその達成に向けた方策

(1) 学習指導

- ① 難関国公立大学入試を見据えた到達目標設定及び達成のための指導計画を作成し確実に実行する。
- ② 問いを中心とした思考力・判断力・表現力を育む探究的な授業を各教科において実践する。
- ③ 学期ごとに適切な観点別評価を行い、学習指導に反映させる。
- ④ 生徒全員が質の高い課題研究に取り組めるよう指導・助言を行う。
- ⑤ 英語力向上とグローバル意識の醸成に取り組み、国際性の育成を図る。
- ⑥ 読書活動を充実させ、本を読む習慣づけを行う。
- ⑦ ICT 機器及び一人一台端末の活用に努め、個別最適化した学び、協働的な学びを推進する。
- ⑧ 生徒による授業評価アンケート結果を把握し、指導に反映させる。

(2) 進路指導

- ① 進路検討会において全教職員で生徒の学習状況及び進路情報の共有を図り、目標レベルや指導法のベクトルを揃える。
- ② 模擬試験の学力層別分析を充実させ、レベルに合致した進路指導を学年・教科で実施する。
- ③ 入学時から難関国公立大学現役合格を目標とさせ、共通テストのフル型受験につながるよう、全ての教科・科目を広く深く学習する意識をもたせる進路指導を行う。
- ④ 卒業生等による進路講演会を充実させ、在校生の意識向上とやる気の維持を図る。

(3) 生活指導

- ① 基本的な生活習慣を身に付けさせ、ルールやマナー(特にSNS関係)を守る姿勢を養う。
- ② 折に触れ「ダイバーシティ」、「多様性の尊重」の考え方を身に付けさせるような指導を行う。

- ③ いじめ・体罰を許さないという認識を全ての教職員・生徒で共有し、安全・安心な学校を実現する。
- ④ 生徒の様子や変化に敏感に対応し、家庭やSCとの連携を密にすることで自虐・自殺防止に努める。

(4) 特別活動

- ① 生徒が主体となる特別活動を推進し、自主自律的に取り組む姿勢を養う。
- ② 学習の上に成り立つ特別活動という意識を醸成させるため、「集中」と「切り替え」の徹底を図る。
- ③ 伝統ある「臨海教室」を安全に配慮して実施し、挑戦・感謝・助け合いの心を育成する。
- ④ ボランティア精神を育み、地域との交流に積極的に取り組む。
- ⑤ 「TOKYOACTIVE PLAN for students」を踏まえ、授業の他、体育的行事や部活動を通して体力向上に取り組む、心身の健康バランスが保てるように指導する。

(5) 広報・募集対策

- ① 学校ホームページを充実させ、魅力ある教育実践を広く都民に発信する。
- ② 学校説明会・見学会等の校内説明会、体育祭・文化祭等の公開行事での広報活動、外部会場での入試相談会等の充実を図り、入試倍率を維持・向上させる。

(6) 学校運営・組織体制

- ① 全教職員が学校経営計画を踏まえ、経営目標達成に向けて各分掌業務に取り組む。
- ② 定時制教職員・経営企画室職員との意思疎通を円滑にし、協力して校内運営及び生徒指導に当たる。
- ③ 経営企画室からの企画提案を推進し、学校運営に反映させる。
- ④ 校内美化に努めるとともに、掲示物等を工夫し、明るい雰囲気づくりに努める。
- ⑤ ライフ・ワーク・バランスを意識し、残業時間の削減に取り組む等、働き方改革を推進する。
- ⑥ PTA・同窓会（紫芳会）と連携し、教育効果を高める活動を継続する。

【重点目標・数値目標】

- 大学入学共通テスト受験者のうちフル型受験者数 240名以上
(H30:243 H31:228 R2:231 R3:244 R4:244)
- 難関国公立大学(東大・京大・一橋大・東工大・医学部医学科)現役合格者数 20名以上
(H30:14 H31:12 R2:14 R3:17 R4:21)
- (東大・京大を除く)旧帝大現役合格者数 16名以上
(H30:10 H31:9 R2:9 R3:16 R4:19)
- 学校評価アンケートで「入学して良かった」と回答する生徒の割合 90%以上
(H30:89.0 H31:87.2 R2:90.2 R3:93.5 R4:89.9)
- 平日の家庭での予・復習時間 1年生:150分以上 2年生:150分以上
1年生 (H30:111.0 H31:123.8 R2:141 R3:112.3 R4:151.0)
2年生 (H30:107.3 H31:113.4 R2:151 R3:142.2 R4:130.7)
- 入学者選抜の最終応募倍率 推薦:(普)3.5倍/(理)2.0、一般:(普)2.00倍/(理)3.50倍
推薦 (H30:2.89 H31:3.08 R2:3.98 R3:普3.33/理2.00 R4:普3.50/理1.50)
一般 (H30:1.61 H31:1.77 R2:1.63 R3:普1.95※/理3.70 R4:普1.96※/理3.66)
※R3以降の普通科の倍率=(普通科専願者数+普通科・理数科併願者数)/普通科募集人員数

【重点目標達成のための具体的方策】

(1) 学習指導 : 質の高い授業実践と自学自習の態度の育成

- ア 大学入試問題研究に取り組み、その傾向と対策を踏まえた学期末・学年末までの学習到達目標を設定し、授業・課題・講習等を統合した指導計画を作成・実行する。
- イ 1・2学年で模擬試験のある教科・科目は「平均偏差値」及び「成績上位層数（SS70以上）」の数値目標を、また、3学年で共通テストのある教科・科目は「全国平均点」との得点差及び8割以上得点者の割合の数値目標を設定し、目標達成を図る。
- ウ 全教員が年間1回以上、生徒の端末を活用し、個別最適化した又は協働的な学習を実践する。
- エ 全教員が、(他教科を含む)年間3回以上の相互授業参観を行い、授業改善に取り組む。

(2) 進路指導 : 高い目標を目指す集団作り

- ア 進路部が主体となり進路指導計画・面談計画を作成し、学年と連携して確実に実行する。
- イ オリエンテーション、学年集会や保護者会等で、第一志望を貫き、現役で難関国公立大学等に合格するという目標が堅持されるように指導する。
- ウ 学校で学習する、生徒同士で切磋琢磨するという意識を育むため、自習室等の活用を積極的に呼びかけ、一日あたりの平均使用人数を現状の1.2倍に増加させる。
- エ 学習時間調査結果をフィードバックし、1・2年生とも一日平均150分以上の学習時間を達成する。

(3) 生徒指導 : 自主自律の精神・多様性を認める意識・態度を涵養する生徒指導

- ア 多様性を認め、相手の立場に立った言動のできる生徒を育成し、いじめ0を達成する。
- イ 生徒の自主性を重んじながらも放任せず、見守る・支える立場での生徒指導を徹底する。
- ウ 遅刻防止、挨拶の徹底など、社会性の涵養、基本的生活習慣の確立に向けた指導を全員で行う。
- エ 発達障害に関する知識を全教職員で共有し、個別案件に対しての適切な対応体制を作る。
- オ 必要に応じて、個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成し、個への対応に努める。

(4) 特別活動 : 学習の上に成り立つ部活動・学校行事等の実践

- ア 部活動顧問及び行事担当教員は今年度の活動目標を定め、部活動指導員を活用している部活動は指導員とも目標を共有して、目標達成に向けて取り組む。
- イ 学習の上に成り立つ部活動・学校行事であることを理解させ、集中とメリハリを意識させて、学習・部活動・学校行事等の両立を図る指導を徹底する。

(5) 広報・募集対策 : 効果的な広報活動の展開

- ア 全教職員が関わり、各種説明会等において効果的な広報活動を行うことで応募倍率の向上に努める。
- イ 学校ホームページの更新計画を作成し、計画通りに更新することで目標とする180回の更新を達成する。それにより、生徒の日常の活動が見えるような情報を発信する。
- ウ 掲示物等の工夫をして、来校者への情報提供を積極的に行うとともに親切的な対応に努める。

(6) 学校運営・組織体制 : 教職員一丸となった組織的・計画的な学校運営

- ア スクールカウンセラー等による校内研修を充実させ生徒が健全な学校生活を送れるように支援する。
- イ PTA・同窓会(紫芳会)との連携を強め、生徒のサポート体制を確実に維持する。
- ウ 保有個人情報の取扱い・入学者選抜業務については、細心の注意を払い、事故ゼロとする。
- エ 教職員の働き方改革を強く意識させ、残業時間の減少を図る。
- オ 各種会議・委員会を計画的に、時間制限を設けて効率的に運営する。